

---

御代田町  
こども・若者の支援に関するヒアリング調査  
【結果報告書】

---

令和7年12月

御代田町



# 目 次

I. 調査の概要 .....	1
1. 調査の目的 .....	2
2. 調査概要 .....	2
3. 報告書の見方 .....	2
II. 調査結果 .....	3
1. 回答者について .....	4
2. 普段の活動について .....	6
3. こども・若者の状況について .....	11
4. 意見表明について .....	19
5. 他機関・団体との連携について .....	23
6. 町の取組について .....	26
7. 自由記入欄 .....	28



# I . 調査の概要

---

## 1. 調査の目的

御代田町では、令和5年4月に施行された「こども基本法」に基づき、こども・若者を地域全体で支えるための方針として「御代田町こども計画」の策定を進めています。

本調査は、こども・若者の支援にかかわる上でのご経験や日々の活動で思うことや感じていることをお伺いし、本町のこども・若者、子育て家庭が抱える課題や今後の支援策について検討する際の基礎資料とするために実施しました。

## 2. 調査概要

ヒアリング調査の実施概要は下記のとおりです。

内容	概要
調査対象	御代田町内のこども・若者の支援にかかわる機関・団体等
配布・回収方法	メール配布、メール回答もしくは郵送回答
調査期間	令和7年8月1日～8月18日
配布数	25件
回収件数	22件（回収率：88.0%）

## 3. 報告書の見方

### ●割合（％）について

回答結果の割合（％）は、有効サンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであるため、単数回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフにおいても同様です。

### ●「単数回答」「複数回答」「自由記述」について

「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶ設問です。

「複数回答」は、選択肢の中から2つ以上を選ぶ設問です。複数回答の結果は、選択肢ごとの有効回答数に対しての割合を示しており、合計が100.0%を超える場合があります。

「自由記述」は、該当する数値や内容を直接記入する設問です。

### ●「n」について

number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

### ●「不明・無回答」について

回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

## II. 調查結果

---

# 1. 回答者について

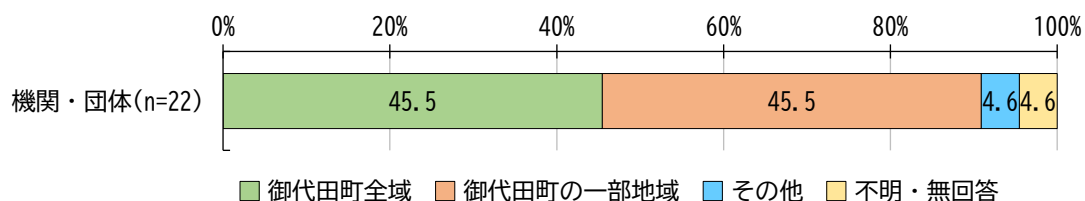
## ◆団体名 <自由記述>

(順不同・敬称略)

No.	機関・団体名
1	教育委員会学校教育係
2	御代田町保健福祉課福祉係
3	みよた・ファミリー・サポート・センター
4	社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会 訪問介護事業所
5	御代田町立御代田中学校
6	御代田町立御代田南小学校
7	御代田北小学校
8	杉の子幼稚園
9	大林児童館
10	東原児童館
11	アンジュール保育園
12	たんぼぼ保育園
13	御代田町やまゆり保育園
14	小規模保育事業所 おひさま
15	雪窓保育園
16	杉の子幼稚園附属 保育園つくしんぼ
17	おもがえっこ 大星クラス (フリーサークル部門)
18	おもがえっこ
19	特定非営利活動法人まちの縁側なから
20	ベビーシッター (キッズライン)
21	みよたの広場 (一般社団法人御代田の根)
22	一般社団法人聖歩 おおきくなあれ保育園

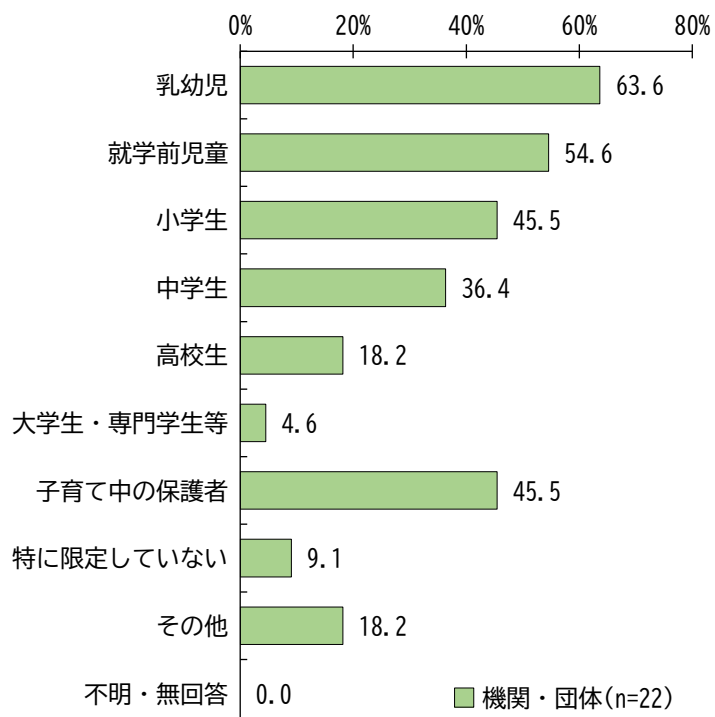
## ◆活動範囲 <単数回答>

全体で「御代田町全域」が45.5%、「御代田町の一部地域」が45.5%、「その他」が4.6%となっています。



## ◆活動の対象者 <複数回答>

全体で「乳幼児」が63.6%と最も高く、次いで「就学前児童」が54.6%、「小学生」「子育て中の保護者」がそれぞれ45.5%となっています。

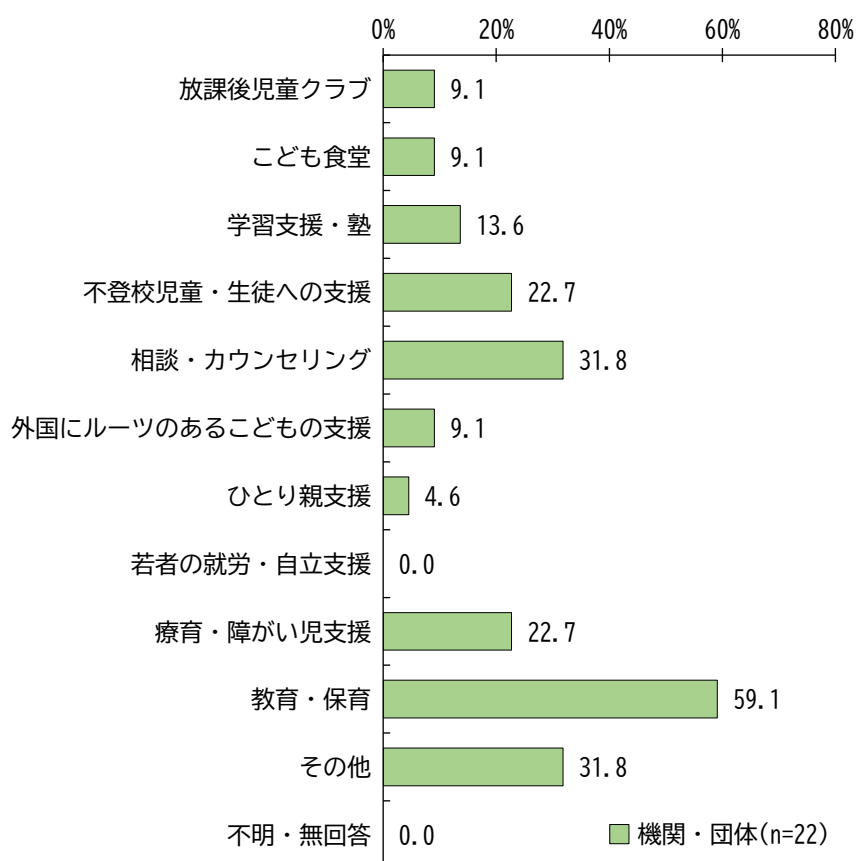


## 2. 普段の活動について

問1 こども・若者やその家庭に対して、具体的にどのような支援を行っていますか。主な活動について次の選択肢の中から選び、支援の内容について具体的に記入してください。

### ◆主な活動 <複数回答>

全体で「教育・保育」が59.1%と最も高く、次いで「相談・カウンセリング」「その他」がそれぞれ31.8%、「不登校児童・生徒への支援」「療育・障がい児支援」がそれぞれ22.7%となっています。



## ◆具体的な支援内容 <自由記述>

### 具体的な内容

児童福祉法による障がいのある児童を対象にしたサービスの支給決定。サービス利用についての相談窓口。  
0歳から18歳までの福祉医療費（医療費助成）給付。

会員組織（依頼会員、提供会員）による託児及び送迎。

1歳未満のこどもがいる世帯の生活支援。

支援会議を設定して、現状やこれからのことについて、どうしていくのかをともに考えたり、関係機関と情報を共有したりしながら組織立って支援を行っている。

学校の活動にかかわること全般。保護者、地域住民とともに活動すること。その他、学校がかかわることは多岐に及んでいる。

基本は教育であるが、児童一人ひとりの困りごとの原因は様々であるため、個別の支援を行っている。

宿題の援助。遊びの支援。生活指導。

小学生の放課後や長期休みの際の居場所づくり。子育て中の保護者の悩み相談。

障がい・グレーゾーン児への加配（個々のペースを大切に保育を進める）。特別な事情がある家庭の支援（育児・精神面）。

預かっているこども一人ひとりが園や家庭で気持ちよく生活ができるように、こどもの気持ちに寄り添いながら身の回りのことや食事、集団生活の中での人とのかかわりなどを身につけられるようにしている。

保育全般。

学校が苦手なこどもとそこそご家庭のサポート。

こどもや地域の方々の居場所。自然体験の場。

不登校のこども達への対応や相談は専門職として専門的に行っているのではなく、「なから」に集う様々な人達とともに、日常的な対応で本人の自己解決能力が高まることを信じて、大家族のような温かな雰囲気づくりを心がけている。

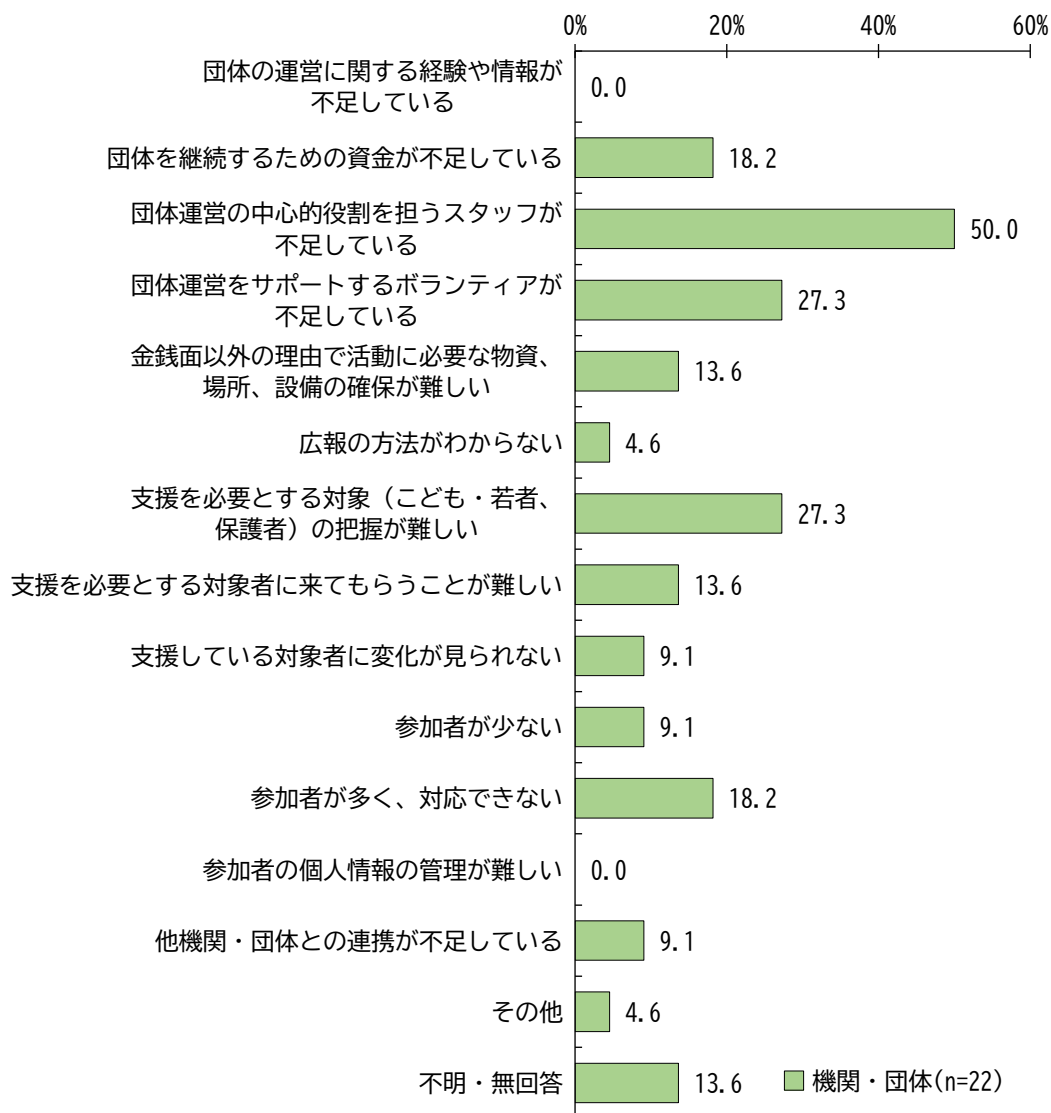
利用者の自宅または宿泊施設などでこどもを預かる。

場所を開いているため、こども達がそれぞれのニーズにあわせて活用している（困難な環境にあるこども達が結果的には集う確率も高くなっている）。また、こども食堂に限らず、こどもが出店できるマルシェなどのイベントを定期的で開催しており、体験学習的な要素にもなっている。さらに、小さなこどもを抱える親や、移住して間もないためつながりを求める親が集う場にもなっている。

乳幼児の発達に応じた保育・教育を行いながら、自然保育や異年齢保育、地域交流、インクルーシブ保育を通じて、すべてのこどもが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいます。

## 問2 貴団体が活動を行ううえで、現在抱えている課題はなんですか。 <複数回答>

全体で「団体運営の中心的役割を担うスタッフが不足している」が50.0%と最も高く、次いで「団体運営をサポートするボランティアが不足している」「支援を必要とする対象（子ども・若者、保護者）の把握が難しい」がそれぞれ27.3%、「団体を継続するための資金が不足している」「参加者が多く、対応できない」がそれぞれ18.2%となっています。



問3 あなたが活動する機関・団体の支援対象となるような子ども・若者及びその家庭を把握し、支援につなげるための工夫はありますか。また、課題はありますか。 <自由記述>

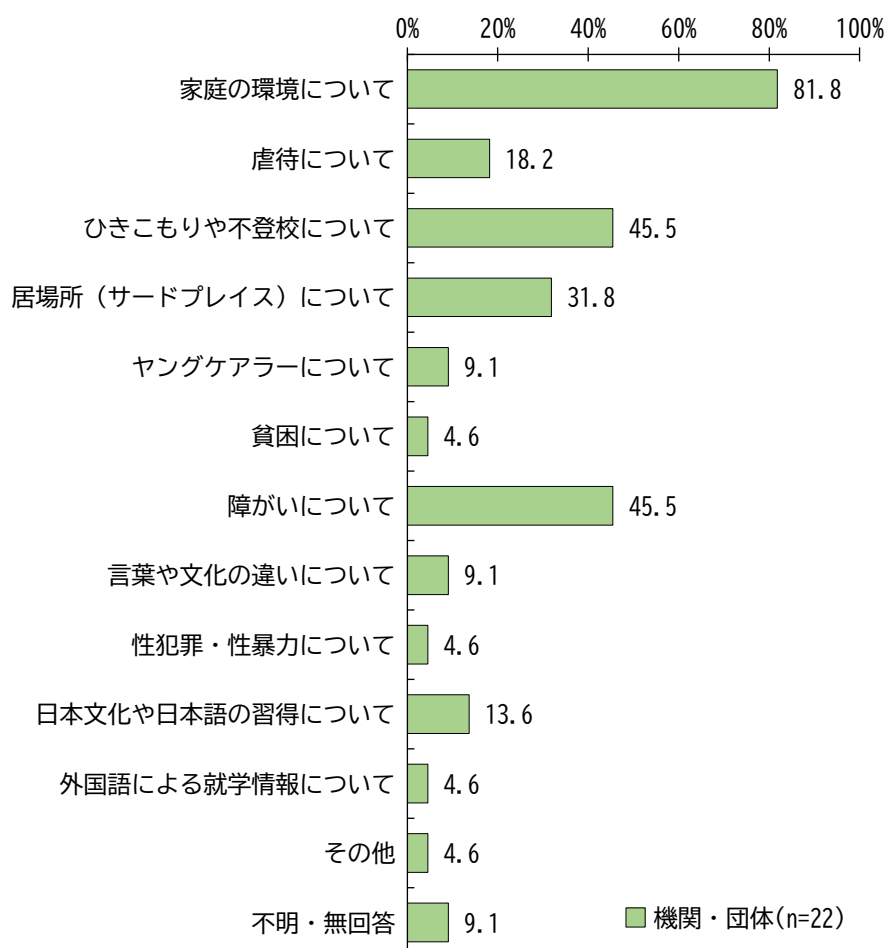
項目	具体的な内容
工夫	課内外の他部署と連携し、情報を共有している。必要があれば支援会議へ参加している。
課題	障がい児については早期から療育を開始することで、生活能力の向上がみられることや、集団生活へ適応しやすくなる傾向にあるが、保護者の希望がないために支援へつながりにくい場合がある。
工夫	パンフレットを作成し配布する。町社協のホームページにて概要を掲載する。社協内別事業の相談受付時に、必要であれば情報提供を行う。
課題	支援対象の把握が難しく、こちらから個別に働きかけて支援につなげることが難しい。
工夫	社会福祉協議会の訪問事業所として、福祉係と連携をとり町に情報を伝える。
課題	スタッフの年齢が高齢化しているため、労働時間に制限がある。
工夫	関係職員で情報を共有し、複数の体制で支援にあたっている。また、外部との連携が必要な家庭に対しては、教頭を窓口にして必要な支援を受けられるよう、外部につなげるように心がけている。
課題	多様な子どもや家庭が増えている中、現有の職員では対応しきれない部分が増えている。その中で、関係する会議も増えており、学校が今までどおりでは立ち行かない状況になっている。
工夫	普段の様子をよく見て、必要に応じて支援会議等を開く。その際に場合によっては、関係の諸団体、子ども相談係、保健師、児童相談所等、支援にかかわる団体に声をかけ、多面的なサポートができるようにしている。
課題	支援の幅が広く、また、対象となる児童が非常に多いため、手が行き届かない。家庭的に課題がある場合、学校からの支援をどこまでできるのか、線引きが難しい。本来の業務は授業を始めとした学習であるが、支援会議、生徒指導などに多くの時間を取られ、本来の業務が後回しになってしまうこともある。
工夫	連絡帳、個別懇談、アンケート・家庭訪問・聞き取りなどにより把握している。
課題	対応できる職員に限りがある。
工夫	幼稚園の特徴である絵画、オルガンリトミック、体操、英語、剣道、日舞、琴などを園独自で行っている（経費はいっさいもらっていない）。園庭は木登りの木や広場を草原にしている。
課題	園児が増えること。
工夫	夏休みは180～240名の子ども達を受け入れる中で、養護学校の子どもを他の機関から迎えに来るまで預かっているが、ほとんど1人で遊ばせている状況である。保護者からのクレームは今のところないが、夏休みはスタッフが足りない。これが課題である。
課題	－
工夫	乳幼児や児童及びその保護者の詳しい家庭状況を把握することは難しいが、様子の変化などは常に伝え、その応えから少しでも判断できるようにしている。
課題	子育ての悩みを聞くことはできるが、いわゆるグレーゾーンの子ども達の保護者に対して、そのことを伝えたり、専門的な相談機関や医療につなげたりすることは極めて難しい。

項目	具体的な内容
工夫	支援対象者とそのこどもの様子・成長・体調等について話したり、保育園での様子を見る機会をつくり、共有するようにしている。また、他の機関と連携を取りながら支援につながるように努力している。
課題	支援対象者が園の様子を見たり、話を聞いたりして積極的に機関とかかわる様子がみられないので、園ではどこまでかかわっていくのか。機関と園との役割を知ることができればよいと思っている。こどもの体調について気になることがあるので、保護者に伝えて、病院受診を勧めるも、なかなか行こうとしない保護者や、症状を軽く見て登園させてくる保護者への支援が必要である。
工夫	町の保健師や心理士、福祉、こども家庭相談係などあらゆる関係機関と連携をとっている。
課題	家庭の意向もあるので、どのような機関とどのようにつなげていくべきなのかという難しさがある。
工夫	親からしっかりと状況を聞き取る。こどもの様子をよく観察する。距離感に注意しつつ、こどもと話す時間をつくる。他の選択肢・居場所の情報を集める。
課題	聞き取った情報の集約システムはつくっているが、スタッフの日々の業務や半分ボランティアで活動しているため、情報を解決に向けて動く余裕が足りていない。
工夫	スタッフが参加者の方とコミュニケーションをとることを大事にしている。佐久地域こども応援プラットフォームに加入するなど、様々な団体グループの情報を収集している。
課題	参加希望、見学希望が増えてきており、スタッフの受け入れ体制と受け入れの上限などの検討が必要かどうか悩ましい。
工夫	民生委員や教育委員会などに、課題のある家庭につなげてもらえるようお願いして、声かけをしてもらっている。
課題	不登校のこどもは自分の意志または家族に伴われて来るが、経済的困難を抱える家庭とつながることができていない。ただ、別のルートでつながった家庭はある。こども食堂イコール貧困家庭のイメージがつながりを阻んでいるように感じる。
工夫	特にない。
課題	「自宅でこどもをみてほしい」という、潜在的な需要はあると感じるが、ベビーシッターを頼むことは金銭的、意識的にハードルが高く、必要としている人に届いていないと感じることがある。
工夫	広くかつ多くの人に参加できるマルシェのようなイベントの開催と、その際にこども達が自由に遊べる環境の整備。
課題	周知の手段について、SNSが中心となっており、対象者へのリーチが難しい。
工夫	気になるこどもの保護者との個別面談。子育ての話し等、安心できる場は必要だと考えている。
課題	個別配慮が必要なこどもに対して、町や保健師、心理士との連携を大切にしたい。子育てを楽しむ場や話ができる場（集まる場）を計画している。

### 3. こども・若者の状況について

問4 普段行っている活動内容以外に、こども・若者たちの様子で何か気になっていることや困っているように思われることはありますか。 <複数回答>

全体で「家庭の環境について」が81.8%と最も高く、次いで「ひきこもりや不登校について」「障がいについて」がそれぞれ45.5%、「居場所（サードプレイス）について」が31.8%となっています。



問5 上記(問4)で回答した選択肢で、具体的な内容、よく見聞きする事例や状況について記入してください。 <自由記述>

問4の選択肢	具体的な内容
家庭の環境について	両親の仲があまりよくない、子育てに関する意見の相違などから、子どもにとって適切な環境でない場合がある。
	両親が遅くまで仕事をしていて、子どもとかわる時間が少ない。移住する家庭が多い。
	ひとり親世帯で保護者に障がいがあり、室内にゴミだらけになっている。キャンセルが多く片付かない。
	家庭的な理由で親と一緒に生活できていない生徒が増えてきている。また、年度途中の転入も何かしらの家庭の理由で転校してくる生徒がほとんどである。人口が増えてきている一方で、上記のような環境的に苦しい生徒が増えてきている印象がある。
	保護者の都合による欠席。保護者から子どもへの過度な期待、保護。一方で、放置とまではいかないがかかわりの薄さ。児童の言いなりになってしまう保護者がいる。
	保護者の仕事が休みの日の保育について、保護者により差が大きい。リフレッシュを目的とあるが、週3日休みの場合など明らかにリフレッシュの目的を超えている場合がある。月曜日など休み明けでは愚図る子どもが多い。保護者も疲れているのはわかるが、子どもの負担が大きいと感じることがある。手のかかる子どもの保護者にその傾向がみられるので、保育園として抑止力ではないが、保護者が損をするようなことのないようなしっかりとした枠組みがほしい。
	家庭環境の複雑化、家庭生活における親の不在、夜間の保護者の所在、子どもの複数の居場所。
	保護者が子どもとうまくかわれない時に、鬼のアプリを見せていうことを聞かせようとしている。YouTube を見せる時間が長かったり、見せながら食事をしている。休みの日には出かけることが多く、休み明け登園してくると疲れていてイライラしたりして、落ち着かない。保護者の子どもとのかかわり方がよくみえてこない。父親に足をかまれたと言って歯形が付いていたことがあった(保健士に連絡済)。
	父子家庭、母子家庭について、実際は親以外の方が面倒をみているような家庭など、複雑な家庭環境におかれている子ども達が増えている。
	子どもが学校にいけない状況について、家族の価値観にずれが生じてしまう。関係性が悪化してしまうケースもある。
親が外国人で、特に母親の日本語が十分でない家庭への支援の強化の必要性を感じる。	
家族でカウンセリングを受けるような体制が見当たらない。家族全体で課題を抱えている。相談先がわかりづらい。	

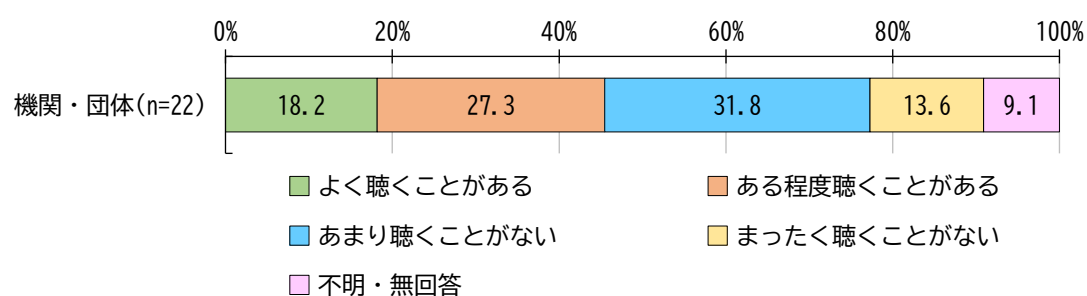
問4の選択肢	具体的な内容
家庭の環境について	<p>気になる子どもの中には、グレーの子どももいれば、スマホ等で脳への影響が懸念される子どもが増えているように感じる。実際に保護者に聞くと、食事の時もスマホを見ていて、スマホをやめると痙攣を起こして困っていると聞いている。</p>
家庭の環境について、虐待について	<p>個人の特定につながるの、具体的には書くことができない。家庭での生活が学校生活に直結しているのは間違いない。</p>
虐待について	<p>言うことを聞かない児童に対して、保護者が暴力をふるう場合がある。事実確認を行い、町福祉係や児童相談所へ連絡している。</p>
ひきこもりや不登校について	<p>高校生以上で不登校になり、ひきこもりになってしまうと、行く先の選択肢がほとんどない。自らの力で通い、動ける場所がない。</p> <p>ひきこもりや不登校になってしまうと、状況把握も難しく支援につながりにくい。また、家庭内のことであり、人に相談しづらいことから孤立しやすい。</p> <p>不登校については、全欠やそれに近い生徒と、学校に行きたいが、思うように足が向かない生徒の二極化が見受けられる。前記のような生徒に対しては、現状ではなかなか支援ができない状況が続いている。</p> <p>中学生以上の不登校・ひきこもりの子どもの選択肢がない。受験のプレッシャーもあり、状況が悪化しがちになる。</p> <p>小学生時期の担任の先生との軋轢から、中学生で不登校になる子どもがいる。 例：先生が怖くて、中学校では1日も教室に入ることができなかった。高校で先生からきつく叱責されたが、先生の誤解を感じながらもそれを解くことができずに中退した。</p> <p>子ども達はまだ十分な言葉を持たずにいるが、1人の人間として尊重されなかった記憶は鮮明に残ったまま大人になってしまう。</p> <p>原因が明確で、その原因を取り除けば登校できる事例はほとんどなく、漠然とした原因や集団参加に対する不安などが多い。</p>
ひきこもりや不登校について、居場所（サードプレイス）について	<p>不登校の子ども達が社会とつながっている居場所、学校以外に自分の力を発揮できる所があるとよいと思う。若者同士が交流できる場など。</p>
居場所（サードプレイス）について	<p>龍神公園で集まって遊んでいた複数人の中学生が、住民にうるさいと注意されたことがあった。遊べるところが公園やエコー、カラオケなど限られている。みよたの広場で過ごしている子どももみかけるが、もっと子どもが過ごせる場所があればいいと感じる。</p> <p>長期休み中の居場所がなかなかなく、家にこもりきりになってしまう。また、留守番をしてもらうには不安である年齢の場合、誰かにみてもらいたいが、祖父母は遠方にいるなどにより、難しいことがある。</p> <p>学校と家庭、両方に生きづらさを感じる生徒の、次なる場所がもう少しあるとうれしい。そのような居場所が町内にあると支援にもつながると思う。</p> <p>自分の子どもに発達障がいがあるのではないかと心配する保護者が増えている。</p> <p>ギフテッドといわれる子ども達を受けとめる、活躍できる場がない。能力を発揮することができない。</p>

問4の選択肢	具体的な内容
障がいについて	身体障がいはすぐに保護者も認めて対応することができる、特性の強いこどもの保護者が認めて過ごしやすい環境を提供すること。
日本文化や日本語の習得について	大きな企業も近くにあり、外国由来の児童が多く、日本語指導のニーズは非常に高い。
外国語による就学情報について	小学4年生同士の喧嘩の後、学校と保護者、こどもの3者で話し合いが行われたが、日本語が十分でないタイ人の母親はその場に呼んでもらえなかった。日本人のこどもの家庭に有利なように話が進められ、タイ人の母親はこどもから悲しさや悔しさを聞き、つらかったがどうすることもできなかったと話していた。このような話が複数あるようだ。
選択肢不明	就労家庭援助であるのに、親が家にいてもこどもを預けている家庭が見受けられる。利用人数が多く、少しでも人数が減ると指導が楽になる。 上記で選択した項目は、児童館で特に配慮しているため、現在困っていることではない。 友達に言葉による解決ではなく、すぐに殴る、叩くといった行為に走る男子生徒がいる。これまで3人の親からそのケガについて館長に訴えがある。預けざるを得ない親の事情と、対応しきれない児童クラブ職員が悩む日々が続いている。

## 問6 活動の中で、こども・若者から困りごとや悩みごとを聴くことはありますか。

<単数回答>

全体で『聴くことがある』（「よく聴くことがある」と「ある程度聴くことがある」の合算）が45.5%、『聴くことがない』（「あまり聴くことがない」と「まったく聴くことがない」の合算）が45.4%となっています。



問6で「1 よく聴くことがある」「2 ある程度聴くことがある」と回答した方

問7 どのような困りごと・悩みごとをお聴きしましたか。また、それらを解決するために、どのようなサポートをしていますか。具体的な内容を記入してください。 <自由記述>

項目	具体的な内容
困りごと・悩みごと	家庭環境。不登校。こどもの特性。
サポート	—
困りごと・悩みごと	親との意思疎通ができていない。親の先入観で物事が決定してしまい、こどもの意思が生き方に反映されない。
サポート	将来、親元を離れたらどのような生活が待っているのか、そのためには今どうすればよいのか、というこどもの将来を見据えての指導しかできない現状がある。
困りごと・悩みごと	学校では児童からの悩み相談が毎日ある。一般的に思いつく悩み（友達のこと、家族のこと、勉強のこと・・・）はすべて学校で聞く内容である。
サポート	必要に応じて各団体にもサポートをお願いしているが、正直、こども・保護者の相談に対してすべての的確に対応はできていない。
困りごと・悩みごと	児童間の人間関係。保護者、教師との人間関係。学習、将来に関する不安。
サポート	悩みを聞くための複数の信頼できる大人（担任、養護教諭、支援員、校長・教頭など）との関係づくり、悩みを聞くための相談窓口の設置、スクールカウンセラーの紹介。事実確認による和解。
困りごと・悩みごと	●●に叩かれた。いじわるされた。カバンに付いていたキーホルダーを盗まれた。
サポート	関係した人物を同じ場所に同時に集め、それぞれの言い分、状況をしっかりと聞いて指導するなど、片寄った指導にならないようにしている。他人が欲しがるといふようなキーホルダーは児童館に持ってこない。このことを全体で指導したり、キズナネットでも流した。
困りごと・悩みごと	友達関係でのつまずき。
サポート	本人及び相手の状況を聴き取り、原因とどうしたいかという願いをはっきりさせて、関係を修復できるよう努めている。場合によっては保護者とも連絡を取りながら進めている。
困りごと・悩みごと	学校の状況に関する困りごと（うるさい、騒がしい、いじわるなこどもがいるなど）。親の理解度に対する不満。自分がやりたいことの見つけ方、進め方。
サポート	こども達の思いをしっかりと受け止める。何か対策することができないかを一緒に考える。具体的に困っていることを聞き取る。
困りごと・悩みごと	親の過干渉、心配性による息苦しさ、親の忙しさ、精神状態を心配している。
サポート	こどもの話をしっかりと聞く。こどもの苦勞を受けとめる、何に困っているかをできるだけ具体的に聞く。

項目	具体的な内容
困りごと・悩みごと	担任の先生から自分だけきつく叱られる。級友の証言あり。
サポート	相談支援専門員と小学校に伺い、月1回くらいの頻度で話し合いをしたが、十分な成果が得られないまま、本人の卒業で終了となった。中学校でも相談支援担当の先生の対応により、一時期学校に居られる時間が増えたが、T先生の異動とともに、学校にいる時間が減ってしまった。
困りごと・悩みごと	人間関係に関する相談、特に、家族との関係性（家庭に居場所がない、親や兄弟とうまくいっていない、親の仲が悪いなど）。また、悩みの相談自体はなかったが、学校に行っていないことに対する後ろめたさ（行かなくて大丈夫かな、友達にどう思われているかな）のようなものをこども達の言動から感じとった。助けを求めるよりも前に、自分の中でもうまく言語化できていないモヤモヤを抱えているこどもが多いように思う。
サポート	解決しようと急ぐのでもなく、こども達をサポート・ケアする、と意気込んで無理に悩みを聞き出すわけでもなく、ただ、こどもに寄り添うことだけを考えてコミュニケーションを繰り返した。まず、こどもがモヤモヤを感じている時は、「家族や学校などの枠組みに属さない誰か」と時間をともにできることがとても大事だと考える。このフェーズにおいては、こどもはわかりやすいサポートやケアを求めている可能性が高いと思われる。その前提に立ち、ただ一緒にいる、話を聞く、緊急を要する状態まで課題が深刻化している場合は、学校などと連携して対応する、という姿勢でコミュニケーションに努めた。

問8 これまでの活動のご経験から、厳しい状況に置かれている子ども・若者や子育て家庭に不足していると考えられるもののうち、重要なものから最大3つまで記入してください。  
<自由記述>

●最も重要なもの

具体的な内容

障がい児の場合、個別の対応が必要な場面が多い。児童館の利用が困難であっても、放課後等デイサービスなどは預かりの場ではないことが多く、長期休み中の保護者の負担が大きいため、居場所づくりが必要。

家庭全体で複合的な課題（経済的、外国籍、障がい等）を抱えている場合、親と子どもへの支援が必要。

産後の母親のサポート体制の整備。広報のあり方。

サードプレイスの設立。子どもが自分の意思で行くことができる施設の設立が急務だと考える。

家庭での生活が成り立っていない中で生活している子どもに対して、どこまでフォローできるのか。身近なところに支援の手がないと非常に心配。

児童の孤立感や自己肯定感の低さ、達成感の乏しさなどを防ぐために、興味がある活動や自己の高まりの実感、周りから認められること。また、励ましなどの温かな声かけ。

子ども同士のトラブルに対して、自分の子どもの言い分が正しいと信じ、児童館側の管理体制の甘さを指摘する保護者が多い。行政に頼り過ぎないで、家庭教育にも力を入れる保護者の育成が必要である。

学校や相談機関、医療機関などとの連携はとれていると思うが、児童クラブに情報が共有されることは少ないと思われる。家庭状況や障がいの実態について情報を共有し、連携できるような環境を整えたい。

子育てに不安を抱えていたとしても、子育てに関しての情報が溢れているため、自己判断してしまう保護者が多いと感じる。地域の中で同じような悩みを持つ保護者との交流の場、または保健師や心理士と気軽に話をしたり、相談できる場を設けることが必要ではないか。

親は子どもに愛情を持って子育てをすること（親の子育ての学びの場の確保）。

まわりの理解。

親の余裕。

金銭的、時間的な余裕が親にないこと。

家庭内に悩みを抱えていても、信頼できる大人や相談機関が身近にない子ども・若者が多くみられる。家庭や学校ではなく、なんとなく寂しさを埋められて心を癒せることものの居場所、なんとなく感じているモヤモヤの話ができる誰かの存在が必要である（普段の子ども達の暮らしの中で、そういう大人との関係性が育てているからこそ、モヤモヤを感じた時にそれを打ち明けられる。「支援者・カウンセラー」というわかりやすい人員とは別のもの）。

保護者のコミュニティの場が不足している。コミュニティの場に誰でも来ることができて、悩みを相談できたり、雑談できたりすることが大切である。

## ● 2番目に重要なもの

### 具体的な内容

1つの家庭に対して複数の部署が対応することがあり、連携はとれているものの保護者が必要な情報にアクセスしにくい場合があるため、工夫が必要。

ひとり親世帯、多子世帯等への食糧支援の充実。

生活用品などの物価の高騰にとどまらず、学校で必要な物品や費用も同じように高騰している。特に、旅行費の高騰のすごさを肌で感じている。旅行にかかわる補助があると保護者も安心すると考える。

自分の中で問題を解決する（折り合いをつける）力が子どもにも大人にも足りない気がする。問題の責任の多くを他に求めてしまう事例が非常に多い。

保護者同士の交流の場。困っている家庭ほど公の場にてでることが少ない。行きたくなるような場所の設定が必要である。

若者は相談機関の存在がわからない人も多いと感じる。また、相談してよいのかと悩んでいる人もいると思う。そのために、月に1度でも若者が自由に話し合えるような会とか場所の提供が必要だと思う。例えば、テーマを決めて司会者がいて、座談会的な感じなら意見を出しやすいのではないか。

経済的に厳しい家庭への経済的な支援。

子どもに合わせた環境。

家族の会話。

ともに子育てできる親族や友人、支援者などの存在。

夫婦共働きの家庭が増えて、忙しい毎日の中で子育てをしているいるため、子どもとゆっくりする時間が減り、子どもからもストレスが多く見られるようになっている。放課後に自分が好きな事をゆっくりできる時間があってはどうか。

児童館で、地域の方や専門の方をお願いして、子どもの得意な分野を伸ばす。（裁縫、お料理、運動、ダンス等。）

## ● 3番目に重要なもの

### 具体的な内容

保護者のみならず、地域住民に対しても子どものかかわり方について学べる機会があれば、住民みんなで支え合える地域づくりにもつながる。

大人も子どもも過干渉と無関心な考えが増えている。大人が子どもとの接し方について考え、学ぶ機会が必要に感じる。

明るい将来のビジョン。

育児に関する人的な支援（具体的に支援する人の確保）。

選択肢、人とのつながり、人とかかわれる場。

地域ママ友などの斜めの関係（親以外との大人とのつながり）。

## 4. 意見表明について

問9 「こども基本法」や「こどもの居場所づくりに関する指針」等において、こどもからの意見やこども支援の施策に反映させていくことが求められています。貴団体の活動の中で、こども・若者の意見を取り入れて何かを実施した事例があれば記入してください。また、その際にこども・若者へのフィードバックをした(意見を反映したことを伝えた)場合は具体的な方法を記入してください。 <自由記述>

項目	具体的な内容
こども・若者の意見を反映した事例	母親の支援のため、事例はありません。
フィードバックを実施した場合の具体的な方法	—
こども・若者の意見を反映した事例	なかなか在籍する教室に入れない生徒が学校で生活する場を設置している。昇降口からそこまで行くのに、いくつかの教室の前の廊下を通過しなければいけないが、教室から廊下が窓越しに見えるため、通りづらいと申し出があった。
フィードバックを実施した場合の具体的な方法	通過しなければならない教室の窓にすりガラスを張り、授業中でも安心して移動できるようにした結果、以前よりもスムーズに入室できるようになった。
こども・若者の意見を反映した事例	令和7年度に取り組んでいる「あいさつキャンペーン」。児童会が主体となって全校であいさつ運動に取り組んだ。
フィードバックを実施した場合の具体的な方法	1週間活動して見直し、振り返って改めて全校にフィードバックを繰り返し行った(校内での活動だが)。
こども・若者の意見を反映した事例	児童会主催による各集会の実行。
フィードバックを実施した場合の具体的な方法	終業式等での児童会役員の努力の紹介、学校だより、学年だよりによる紹介。
こども・若者の意見を反映した事例	大星クラスの旅行、新年度交流デイキャップ、夏祭り、大星クラスのイベントはこどもが中心に企画を進めている。
フィードバックを実施した場合の具体的な方法	基本的にこどもと決めながら動くのでフィードバックは不要。 【具体的な進め方】 大人が対応できる範囲を伝える。その中で、こどもがやりたいことや進め方を決められるよう、スタッフがサポートする。話し合いは短時間。どんな意見もOK。
こども・若者の意見を反映した事例	大星クラスの旅行、新年度交流デイキャップ、夏祭り、大星クラスのイベントはこどもが中心となって企画を進めている。
フィードバックを実施した場合の具体的な方法	—

項目	具体的な内容
こども・若者の意見を反映した事例	こどもが出店するフリーマーケット。
フィードバックを実施した場合の具体的方法	こどもがやりやすい場の設定をする。その後は親子に具体的なことを進めてもらう。
こども・若者の意見を反映した事例	常にこどもの意見を聞きながら活動（遊びや生活）している。
フィードバックを実施した場合の具体的方法	常にそのようなコミュニケーションをとっている。
こども・若者の意見を反映した事例	<p>「こどもスタッフの実施」</p> <p>こどもがスタッフとなり、自分達よりも小さいこどもが安全に遊べるよう付き添うことや、自分達の遊び場のゴミ拾いや草刈りなどのメンテナンスを行った。自分達の遊び場を大人に提供してもらうという姿勢ではなく、自分達の居場所を自分達で運営したいという意見を取り入れて採用した。</p>
フィードバックを実施した場合の具体的方法	意見を取り入れて仕組み化し、希望する他のこどもにもスタッフとして活躍してもらった。

問 10 こども・若者にとって、方法・環境・場所などどのような状況であれば意見を言いやすいと思いますか。普段の活動において気をつけていることなどを具体的に記入してください。 <自由記述>

●方法

具体的な内容

WEBフォーム、SNS。

紙に書く。

何回かかわり、コミュニケーションをとる。

メタバースを用いた会話空間。

少人数によるグループ討議。

こどもが職員に何気なくつぶやいたことを拾い、館長に伝える。

日常の中で、少しでも話をする機会をつくり、その中から考えを聞き出す。

例えば、テーマを決めて司会者がいて座談会的な感じ。

安心できる人間関係であること。話し合いは任意での参加であり、義務ではない。

声を発しにくい場合はホワイトボードを使う。こどもの声を尊重する。こども扱いをしない。

1対1で、乳幼児であれば言葉で十分に伝えられないかもしれないが、こちらから選択肢を提示することや、絵など視覚的なものを用いて補うなどして、言いたいことを理解したい。

心理的安全性が担保された関係性のある人に対してであれば言いやすい（ご意見箱・目安箱のようなものに書かれたことはない。日々の雑談の中からそういった意見が出てくるのがほとんどだった。）。

●環境

具体的な内容

匿名である。非公開等個人を特定されない。

堅苦しくない雰囲気（一緒に遊んでいる時や打ち解けてリラックスしている時等）。

かかわる大人の姿勢、声のかけ方。最後までかかわる。

その生徒と保護者が安心できる空間、人。傾聴する雰囲気、環境を整える。他者に気づかれない環境。

どんな意見を言っても人格を否定されない約束された場所（教室は間違うところ）。

まずは聞く。いろいろなタイプの職員がいるので、こども達は対象を選んでいる。

日ごろからこども達と雑談ができるような雰囲気をつくる。

どんなことでも否定せず、自分が思っていることや感じていることを安心して吐き出せる雰囲気。

話し合うスタイルはフリー（人に迷惑をかけている場合はそれを伝える）。話の中心はこどもであること。

大人はあくまでもサポート・見守りであり、様々な意見を受けとめたり、認める。

こどもの話の聞き方に自由度を持たせる。こどもが大人の話の聞いていると信じる。無理やり聞かせない。

大人が真剣に話し合っているとこどもにはわかる、自然と入ってくる。

信頼関係があること（この人の話は聞いてくれる、自分のことを大切に思ってくれるという信頼関係）。

わざわざ意見を言ってしまうという雰囲気にしないこと。

## ●場所

### 具体的な内容

対面ではなく、遊びやワークショップ中。

遊び場、自宅。

児童館のような場所の提供（居場所）。

かしこまらない、あたたかい雰囲気の空間。

場合により、相談室のような狭いスペースや学級全体での討議など使い分ける。

一緒に遊びながら話を聞くというケースが多い。

オンラインの活用もありかと思う。若者は話をしやすいかもしれない。

逃げ場がある場所。騒がしくない場所。

逃げ場がある。静かな場所。

緊張しない場所（自宅や慣れた場所）。気が散ったりしない落ち着いた所（視覚、聴覚などに過度な刺激のない所）。

普段の生活空間の一部になっている場所。わざわざ設定された場ではなく、普段の暮らしでよくいる、よく行く場。

## ●その他

### 具体的な内容

相談できる人が常にいる。孤立していないと安心感がもてる。

日々、多様な相談がある。上記の例にあるような内容はすべて学校では取り入れている。

学級会等で決定した事項は実践し、成果を全体で振り返る。

伝えてくれた考えについて真摯に対応し、できるかできないかを一方的に伝えるのではなく、どうしたら活動の中に取り込めるのかを、周囲も巻き込みながら考えていく。

自分の意見がどのように活かされていくのかを知りたいと思うので、フィードバックは必須であり、次回の際に出された意見でどのように改善されたのかの結果も伝えられるとよいのではないかと思う。

楽しい雰囲気。こどもを信じている環境。

意見をちゃんと聞く。対等に答える（言葉はわかりやすいように）。

自分の意見に対するフィードバックがあること（意見が通らなかった場合にも丁寧に説明し、意見を伝えてくれたことの素晴らしさを伝える）。

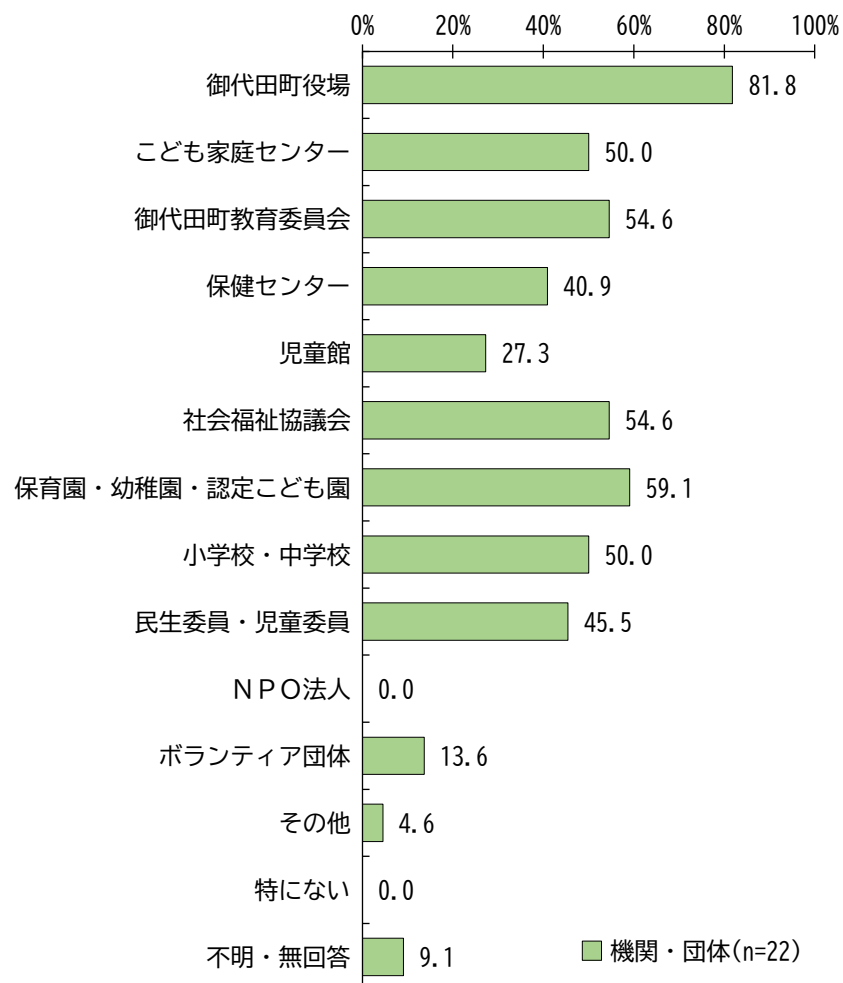
ひとりでなく、仲のよい友達と一緒に話ができる環境。

## 5. 他機関・団体との連携について

問 11 あなたが日ごろ活動する中で連携している機関・団体はありますか。

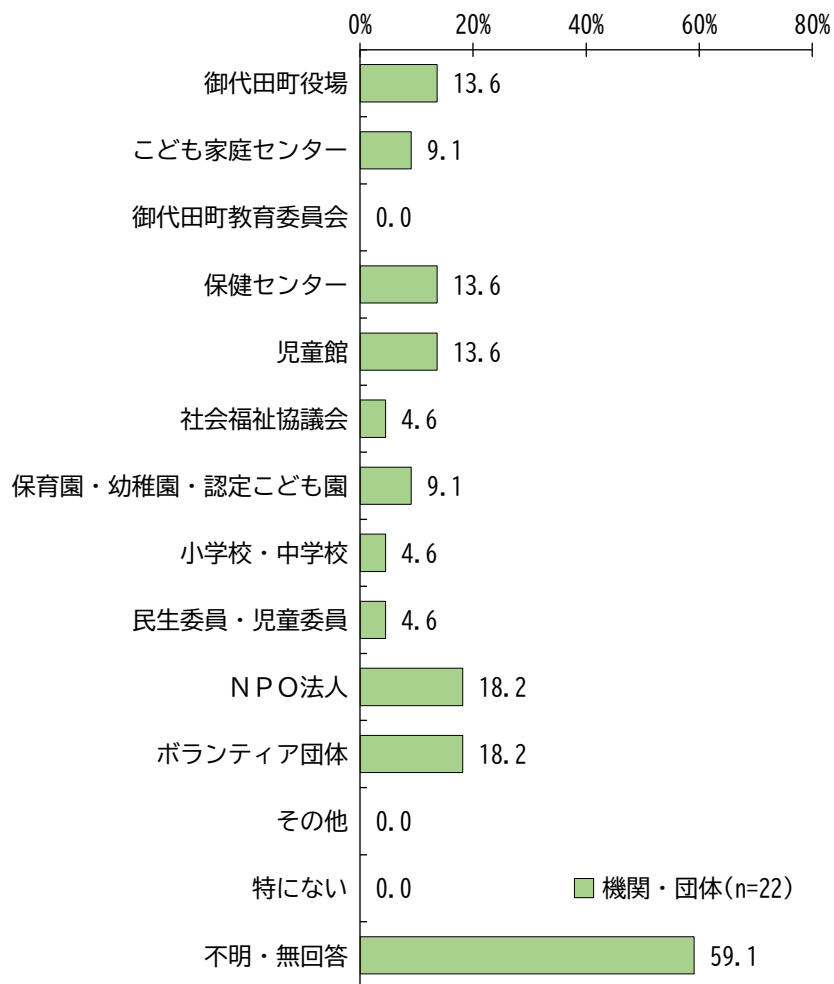
### ◆現在連携している機関・団体 <複数回答>

全体で「御代田町役場」が81.8%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・認定こども園」が59.1%、「御代田町教育委員会」「社会福祉協議会」がそれぞれ54.6%となっています。



### ◆今後連携したい機関・団体 <複数回答>

全体で「NPO法人」「ボランティア団体」がそれぞれ18.2%と最も高く、次いで「御代田町役場」「保健センター」「児童館」がそれぞれ13.6%、「こども家庭センター」「保育園・幼稚園・認定こども園」がそれぞれ9.1%となっています。



問 12 他機関・団体や御代田町(教育や福祉等)との連携において、どのような課題があると考えていますか。 <自由記述>

具体的な内容

各団体が取り組んでいる事業の内容把握や相互理解。各団体への支援内容や方法。

お互いの事業や活動について、あまり周知されていない部分がある。特に、町は異動があり担当者が変わりやすいため、定期的な情報の共有が必要である。

教育と福祉が連携する必要性を大いに感じる。しかし、学校現場からするとこれは教育、これは福祉とすみ分けをすることができない。教育関係、福祉関係、双方から指示がくると困惑することもあるので、指示系統を一本化してほしい。学校現場は国や県で配置の定員が決まっている。新しいことを行うとやるべき内容が増えていくので、人的資源の確保も考慮して、連携体制を整えてほしい。

御代田町はかなり積極的にかかわっていると思う。どこの団体にも気軽に相談できるような雰囲気があり、ありがたい。ただ、どこも必要としている人に対して、対応する人が少ないと思う。(これは御代田町に限ったことではないが、) いろいろな団体との横のネットワークが、今後ますます大事になると思う。

学校ができる支援は限られているため、福祉係、児童相談所、SSWなど、家庭支援ができる機関と情報の共有や連携して対応をしているため、大きな課題はない。しかし、すぐに解決する問題ではないので、長期的なかかわりや自立支援等の引き継ぎを落ちのしないように行うことの必要性を感じる。

連携を図るには児童館の実態を自分の目で見て理解し合うことが大切だと思うが、そのような時間がなかなか取りにくい状況であるため、改善を図る方法がなかなか見いだせない。

特に、乳幼児の保護者からの要望として、母子センターの早期の建設が挙げられる。現在の児童クラブとの併設は、小学生と幼児が交流できるという利点があるが、幼児の保護者が小学生のいる時間帯は利用を避けたがるなど、不都合な点も多い。

保育園ではこどもの成長を支えるために、保健師との連携が必要だが、うまく連携ができている関係ではないと感じるので、もっと身近な存在になってほしい。また、支援児が増えているので、町で支援児の支援ができるよう、親子で利用できる通所支援施設(通園施設)を設置してほしい。さらに、早期療育で、子育てやこどもの発達、親子の接し方など、保護者の悩みや相談に応じて、保育士や専門職が子育ての不安の軽減を図り、こどもと保護者、保護者同士のつながりが持てるような「居場所」が必要である。

学校教育と幼児教育の連携や接続が推進されるとよい。

発達に心配のあるこどもに対して、保育園でのかかわり方がわからない時に、保健師に相談して臨床心理士につなげてもらうが、「その後はどうか」など保健師からの連絡はなく、いつもこちらの一方通行になっているような感じがする。本当にこのかかわり方でよいのかと手探りで保育をしているので、不安が大きい。保健師はもっと大変なこどもも抱えているので、こちらまで手が回らないかもしれないが、たまには状況を聞くなどの連絡をしてほしい。保健師との連携をもっととれれば、ありがたいと思っている。

連携のコーディネートを誰が行うのかはつきりさせること。

こどもやその家族の様子をスムーズに連絡・連携を取り合える環境づくり。それぞれの団体にあった支援が相互に行える環境づくり。

自分達の活動状況を伝えていく工夫をしたいが、人も時間も足りない。

支援が必要な家庭が居宅訪問型保育サービスを受けられるようになれば、支援が必要なこどもの早期発見や予防につながると思う。もし、そのような支援事業を町で取り組むのであれば協力したい。

## 6. 町の取組について

問 13 支援活動をより充実させるために、協力や支援を求めたいことはありますか。

<自由記述>

### ●御代田町への希望・要望

#### 具体的な内容

近隣自治体では、提供会員へ支援活動に対する補助金を交付している。依頼会員が利用しやすい、提供会員が支援しやすい仕組みづくりのための協力をしてほしい。

教育関係は、連絡系統について教育委員会を通して行ってほしい。教育委員会が学校現場で対応が可能なのかを精査して、現場におろしてほしい。

母子センターを開設してほしい。

支援児が増えてきているので、町で支援児を支援することができるよう、親子で利用できる通所支援施設（通園施設）を設置してほしい。また、早期療育で、子育てやこどもの発達、親子の接し方など保護者の悩みや相談に応じて、保育士や専門職が子育ての不安の軽減を図り、子どもと保護者、保護者同士のつながりも持てるような「居場所」を提供してほしい。

図書館、資料館、福祉施設等との連携。保育体験をして、実態を知ってほしい。

子どもやその家族を見守る・サポートするために、関係窓口が横断的にかかわれるような状況づくり。

移動支援。

ベビーシッターサービスをより利用しやすくするために、金銭的な補助をしてほしい（例えば、東京などはベビーシッター割引券が充実していて、月に数時間無料でベビーシットングを頼むことができる。町外からきている裕福な利用者でなく、町内の金銭的・物理的に余裕がなく頑張っている保護者の手助けができればと感じている。）。

家賃の減免について、町有地を賃借して運営を行っており、年間 166 万円の家賃支払いが発生している。運営はボランティアコミュニティにて実施しており、人件費はほぼかからないため、運営資金のほとんどが家賃となっている。また、寄付会員やクラウドファンディングで対応しているが、負担が大きく、かつ継続性が不安定となるため、家賃の減免の検討をお願いしたい。

子育てのまち御代田と聞く中で、前向きに頑張っていると感じていますが、1つのことをもっと町民の意見を聞いて、実行した後は継続できると良いのではないのでしょうか。

誰でも通園制度をいち早くスタートしたことは凄いことです。預けて子育ての相談ができる場もあっても良いのではないのでしょうか。

### ●地域の人たちに協力を求めたいこと

#### 具体的な内容

放課後の活動の場の支援。

インフォーマルな活動をぜひ活発にやってほしい。

ファミリーサポートの活動を理解して、支援者として提供会員の登録・活動に協力をお願いしたい。

現在、南小にはコミュニティルームがあり、週に1回地域の方が大勢来てくれるが、日常的にふらっと学校に来て子どもとかかわってもらえるとうれしい。

地域ならではの「距離の近さ」が救いになる場面での協力をしてほしい。問題等の未然防止として、普段の温かなかかわりをお願いしたい。

#### 具体的な内容

日常的な保育ボランティア・保育補助、伝統文化行事体験（寺社行事、地域の祭等）。

見守ってもらうこと。子どもと対等な関係として、様々なかかわりを持ってもらえるとありがたい。

見守ってもらえるだけでありがたい。何か得意なことなど、技術の提供をしてもらえるとありがたい。

児童館のこどもの数が増えていると聞いています。高齢者から昔の遊びを学ぶ時間があっても良いのではないのでしょうか。地域の方が子どもたちに目を向け、登録制で来ていただく時間が増えると良いのではないのでしょうか。

## 7. 自由記入欄

問 14 こども・若者、子育て施策について、普段感じていることやご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。 <自由記述>

### 具体的な内容

未就学児への支援は大変充実しているように感じるが、就学後中学、高校とステージが変わっていくにつれて、なかなか支援につながりにくいように思う。年齢を重ねて支援が不要になっていくのは自然かと思うが、何らかの支援につながれるような仕組みがあると安心できると思う。

こどもに明るい未来への希望、満足感や達成感を味わえる現在、懐かしく振り返ることができる過去など、幸せな生活を送ってほしいが、現実には先行きの見えない社会情勢に不安が募っていると思う。自らがそれぞれ抱える困難さを乗り越えたり受け入れたりするためのヒントを見つけたり、能力を身につけたりするような支援が必要だと思う。

真に「こどもまんなか社会」のあり方とはどうなのか、考えていく必要があると感じる。

不登校、ひきこもりに関する対応について、教育委員会等がかかわっているが、町としての対応や考え方が公にはあまり明確ではないように感じる。教育移住が増えている中で、対応や考え方を明確に打ち出してもらえると、より一層の安心感につながると思う。

入園前の親子が行く場所が少ない。児童館が利用しづらい（利用条件が児童に合わせているため）。若者の居場所が少ない（ない？）。家庭の困りごとに関する窓口が分かりづらい。



御代田町 こども・若者の支援に関するヒアリング調査  
【結果報告書】

---

発行年月：令和7年12月

発行：御代田町

編集：御代田町 町民課 こども係

住所：〒389-0292

長野県北佐久郡御代田町大字馬瀬口1794番地6

TEL：0267-32-3114